

# 川越初雁会



総会で挨拶をする岩堀会長

## 氷川会館で第六回総会開催

平成二十八年九月三日、くすのき祭と同日、川越氷川会館で、第六回川越初雁会総会が開催されました。

会長挨拶の後、平成二十七年年度の事業報告並びに決算の承認、平成二十八年度の事業計画案と予算案が承認されました。

引き続き、総会記念対談「霞ヶ関カンツリー倶楽部よもやま話」と題し、講師の竹間正雄プロと岩堀会長の霞ヶ関カンツリー倶楽部の歴史と裏話にまつわる対談が行われました。

### 総会記念対談

竹間正雄プロ（高四回）

### 「霞ヶ関カンツリー倶楽部よもやま話」

総会当日、氷川会館で和やかなうちに行われた霞ヶ関カンツリー倶楽部にまつわる、興味深い内容をご紹介します。

**岩堀** 二〇二〇年東京五輪にて、川越市の霞ヶ関CCCがゴルフ競技の会場に決まり注目されています。長い間霞ヶ関CCCの所属プロとして、ゴルフ界に貢献してきた竹間正雄先輩に、講演をお願いしました。今までの人生の経緯を霞ヶ関CCCの変節と絡め、お話しいただきたい。

**竹間** みなさんこんにちは、竹間正雄でございます。

昭和二十七年三月に川高を卒業と同時に霞ヶ関CCCに採用していただきました。霞ヶ関CCCの話を中心に私の人生をお話したいと思えます。

霞ヶ関CCCは昭和四年十月に開場し、今年をもって八十七年になります。その間にいろいろとありました。終戦をはさんでの前後十年間は本当に大変な時期でした。昭和十六年十二月



記念対談講師 竹間正雄プロ 略歴

昭和二十七年川越高校卒業と同時に（一般社団法人）霞ヶ関カンツリー倶楽部入社、同三十年プロテスト合格。テレビ解説、テレビレッスンなど多数出演、日本プロゴルフ協会理事、埼玉県プロゴルフ協会会長を歴任。

に大東亜戦争が始まり、昭和十八年ごろより国からゴルフを自粛せよとの通達があり、退会者が増えました。またクラブの名称も変更となり、一時は「霞ヶ関田園倶楽部」という名になりました。戦局も悪化した昭和十九年には、国よりコースの半分は畑にせよとの命令があり、コースの芝をはがして小麦やさつまいもの畑にし、倶楽部内を「農耕部」と「打球部」の二つに組織しました。ただし人員の大半は「農耕部」所属でした。

さらに戦局の悪化で、昭



ありし日の大澤寛先生と奥様

月、第四回展を二〇一四年八月にそれぞれ同じ川越市立美術館の市民ギャラリーで開催してきた。出品者は大澤先生時代のOBがほとんどなので、根岸先生時代から現在までのOBの出品を期待している。

「紫縁展」は、現在（高十四回）の大護皓夫君を中心に準備委員会議を重ね二〇一七年九月に第五回展を開催するよう準備している。出品対象者は川高OBであればどなたでもOKである。是非出品および鑑賞に参加され交流できれば幸いです。

現在制作中の生徒作品があり、絵画（油彩、アクリル画など）平面から立体（鍛金、鍍金、FRPの制作）などの取り組みも見えた。

「紫縁展」の準備委員会では継続を考え、現役（高校生・大学生）からの出品も受け入れることになった。

いことになろう。先日十二月の期末テスト中の母校を訪問し、顧問の田上先生に美術部の現在についてインタビューすることができた。

それによると近年部員が増えて現在一年生三名、二年生十一名三年生八名で計二十二名とのこと、芸大、美大、造形大等への進路希望も強いようだ。部活動の中身も近年は、高校美術展への出品が県大会段階から全国大会までに進展し、現二年生の作品がここ五年間で四度目の全国大会への出品が予定されている。

## ゴルフ同好会

白田憲司（高二十二回）



川越初雁会 第十回ゴルフコンペ 川越カントリークラブ

ゴルフ同好会ゴルフコンペが十月十三日（木）川越カントリークラブで開催されました。今回は第十回の記念大会ということもあり、四十三名が参加されて盛大なコンペとなりました。

念大会ということもあり、今年夏は天候が不順で九月などは晴れの日が数日しかありませんでしたが、この日は穏やかな天候に恵まれ、岩堀会長によるご挨拶ののち和気藹々かつ順調にプレーが進みました。私は十九回卒の岸野先輩、新井先輩、同級生の田島君とのラウンドでした。

この日はたまたま大きなハンディキャップを頂いて優勝致しましたが反省ばかりです。私と田島君は最年少参加者でしたが、岸野先輩をはじめ私たちがよりスコアが良い先輩方が沢山おられ、まだまだ努力が足りない事を痛感致しました。ゴルフ同好会の松本会長や運営にご尽力頂く幹事の皆様から感謝申し上げますと共に、この素晴らしい会が益々盛大に続くことを願っております。

### 編集後記

前号に掲載した引間さんの川中の思い出によせて、娘さんからお礼の封書が届きましたので一部を紹介させていただきます。

「この度は会報に父の拙い思い出と大きな写真を載せて頂き、本当に有り難うございました。」

母も供養になると早速仏前に供え大変喜んでおります。お盆には親族が集まりますので、子供や孫たちも喜んでくれると思います。」改めて、引間さんのご冥福をお祈り致します。

### ◆事務局からのお願い◆

年会費二千円未納の方がいらっしやいますので、お早めに納入をお願いいたします。

**発行人** 岩堀 弘明  
**会長** 岩堀 弘明  
**事務局** 川越市六軒町一三十三番地  
**題字** 吉沢翠亭(義和)  
**印刷** (株)櫻井印刷所

和二十年四月には完全に倶楽部を閉鎖せざるを得なくなりなりました。

い、九月三十日より米軍が倶楽部を接収するということになりました。米軍側よりも畑になつてい

その後、昭和二十九年四月までは日米共同経営という形で運営されておりました。自分はコースの近くに

竹間 入社してしばらくは事務作業ばかりしておりました。具体的には戦前から

は英語の方は全くできませんでしたが、二年くらい続けるうちに、話すのはだめ



対談中の講師の竹間プロと岩堀会長

この時東西三十六ホールのコースとして再開しました。これから昭和二十七年四月

岩堀 今では想像ができません。昭和二十七年よりプロを目指してどのような訓練をし、どのような指導を受けられたのですか？

竹間 入社してしばらくは事務作業ばかりしておりました。具体的には戦前から

に、会場の熱気が一段と上がりました。目の前でプロが実演しながらコーチする、これは説得力が全く違

秋の散策会

小江戸川越古寺散策

原 宗康(高四十一回)

今年の秋季散策会は、十一月六日(日)に同窓会の秋季散策会として実施されま

の紙面を借りてまずは御礼申し上げます。当日は好天に恵まれて、菊池同窓会会長、青木校長

広済寺、養寿院を訪ねました。蓮馨寺では、住職である糸原恒久氏(高二十回)より寺の説明と講話を頂いた

中院では、本殿にて住職仁平雄俊氏よりその歴史についてお話を伺いました。

散策終了後、水川会館に全員が集合し、盛大に懇親会が行われました。



Aコース養寿院山門にて

「小江戸蔵里」に集合し、全体をA・B二つのグループに分かれ、Aコースは徒歩で、Bコースはマイクロバスを利用して、各寺院を訪問しました。

Aコースでは、蓮馨寺、内していただきました。養



Bコース東照宮にて

その後に中院の庭園にて、川越市教育委員会の田中敦

会が行われました。

# 雁の記

川越散策日記

## 川越駅の話

荒牧 澄多記  
(高二十七回)



昭和53年川越駅西口 撮影 荒牧

に、町中にお住まいの方は自転車を、東上線なら川越市駅を利用したことでしょう。

川越駅は、東上鉄道が開通した大正三年(一九一四)五月一日より遅れること十一ヶ月、翌四年四月一日に川越西町駅として開設されました。どうしてここに駅を置いたのでしょ

うか。今でこそ、クレアモールの突き当たり

に位置しているように見えますが、クレアモールは江戸時代から続く所沢道、この街道に隣接して駅が設けられました。ここから東側を見ると、一キロメ

ートルと離れていないところに仙波河岸があります。また、菅原町周辺には織物等の工場が、多く建てられるようになってきていたよ

うです。入間川街道に近接し、日高県道や旧城下町に近い川越市駅(当時は川越町駅)とは、異なった地域の物資の集散場所としての

立地が考えられますね。

川越駅と名を変えたのは、昭和十五年に国鉄(当時)川越線が開設され、ここに駅を設けたからです。それに伴い、西口には国鉄の駅舎が建てられました。この駅舎は、寄せ棟造り平屋建てのかわいらしい洋館

で、昭和の終わりまで残っていました。また、各ホームと駅舎との間は、コンクリート造の地下通路で結ば

れていました。東口の改札に入ると、すぐそこは東上線の上りホーム。何度走って電車に飛び乗ったことやら。階段を使



昭和53年川越駅東口 撮影 荒牧

わなくて済み、それは便利でしたけど。

また、国鉄と東武の間に改札はなくフリーパス。定期券をもって通学するようになった学生時代に、よからぬことを思いついた諸兄

もおられるのではないでしょう

うか。この駅が大きく変貌を遂げるのは、再開発事業による

域において、土地を統合しコンクリート造などの不燃化した共同ビルなどを建てて、土地の有効利用を図ろうとするものです。

川越では、昭和五十七年に完成した川越駅前脇田ビルがあります。これは、住宅・都市整備公団(現UR都市機構)が直接施行した駅前再開発第一号です。アトレと駅前交通広場

は、川越市が施行した再開発事業によるもので平成三年三月にすべてが完了しました。

駅前広場は、自動車と歩行者が交錯しないように歩行者空間を橋上化しました。ペDESTリアンデッキとい

## 美術部今昔

木下 重美 (高十一回)

川中時代の美術部を調べ

る術はないが、川中OBで

著名な美術家として次の方々を挙げたい。岩崎勝平(中二十一)、内田静馬(中

二十二)、橋本次郎(中三十五)、大澤寛(中三十九)各氏。

戦後のことを同窓会事務局に調べていただいた

ところ、美術部の顧問は大澤寛先生

が一九四八年から一九八六年までの

三十八年間であった。次いで根岸和弘

先生は二〇〇〇年まで十四年間、その後濱口政弘先生が二〇一一年まで十一年間、そして現在の田上

第4回紫縁会出品者2014年8月



上朗先生が五年間顧問をされている。この間にどれだけ

の部員がお世話になったか計りしれない。私事で恐縮だが、私は一九五六年に入

学し、生徒会の部活

説明会直後に美術部員となった。その年は三年生の先輩

が六人ほど在籍していたが一年生は私を含め三人

で部活動の内容は芸大を目指した石膏デッサンのみで

変化した。楽しかったのは三年生からである。部員が増え

た。自分が部長で副部長に同期の尾崎勝美君を得て、

いろいろ活動を展開した。春はミロのビーナス展、秋には

わかれ美術部OBは顧問の大澤寛先生が退職され

る一九八六年に美術部OB展を川越市立図書館で開催